

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名								今井 紀代子			
生理学Ⅱ				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
教員資格を持つ鍼灸師が、患者の病態分析・観察に必要な生理学の内分泌系・生殖系・感覚系・生体の防御機構を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。 座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕											
医学の基礎となる生理学の知識を習得する。 身体の正常な働きを説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
生理学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	第8章 内分泌 A、ホルモンの特徴～B、ホルモンの種類とその働き					内分泌腺を理解できる。 ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。					
2	第8章 B、ホルモンの種類とその働き (下垂体ホルモン～副甲状腺ホルモン)					下垂体～副甲状腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。					
3	第8章 B、ホルモンの種類とその働き (膵臓ホルモン～副腎ホルモン)					膵臓～副腎から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。					
4	第8章 B、ホルモンの種類とその働き (精巣・卵巣のホルモン～その他) 第9章 生殖・成長と老化 A、生殖～					性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。 生殖器の構造と働きを理解できる。					
5	第9章 b.女性生殖器 (2)性周期					女性性周期を理解できる。					
6	第9章 B、妊娠と出産～D、老化					妊娠～出産までの流れを理解できる。 老化について理解できる。					
7	確認テスト 第13章 感覚 A、感覚一般～					テストにより効果測定、理解度の把握。 感覚を分類することができ、各種感覚に共通する一般的特徴を理解できる。					
8	テスト返却・解説 第13章 B、体性感覚～					テストの解説。 体性感覚、内臓感覚について理解できる。					
9	第13章 D、痛覚					痛覚について理解できる。					
10	第13章 特殊感覚①					特殊感覚である味覚・嗅覚・聴覚を理解できる。					
11	第13章 特殊感覚②					特殊感覚である平衡感覚・視覚を理解できる。					
12	第14章 生体の防御機構 生体の防御機構 a.非特異的防御機構～ c.白血球の					非特異的防御機構・特異的防御機構の特徴を理解できる。					
13	第14章 免疫に働く液性因子～B、免疫反応					免疫系で働く白血球や液性因子の働きを理解できる。					
14	期末テスト 第15章 身体活動の協調					テストにより効果測定、理解度の把握。 生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。					
15	テスト返却・解説 第15章					テストの解説。 総復習					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。小テストを実施し、その点数を確認・期末テストに加算する場合もある。 確認テストと期末テストの合計点が60点未満の者は再試験を実施する。評価は学則規定に準ずる。						各分野ごとにプリントを配布し、授業を行う。重要項目には下線を引いたりメモをとること。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								柏崎 雅大/酒井 大輝			
解剖生理学				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
教員資格を持つ鍼灸師が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕											
解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
解剖学・生理学(医歯薬出版)、解剖学トレーニングノート(医学教育出版社)、イラスト解剖学											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	解剖学 第6章 生殖器系；女性生殖器					精巣の構造、精子の発生と精路の構造を理解する。					
2	解剖学 第6章 生殖器系；発生					卵巣の構造、卵子の発生を理解する。					
3	解剖学 第6章 生殖器系；男性生殖器					発生の諸段階を理解する。					
4	生殖器、確認テスト 解剖学 第9章 感覚器；視覚器					眼球の構造、眼の筋肉を理解できる。					
5	解剖学 第9章 感覚器；視覚器・平衡聴覚器					聴覚器の構造、聴覚の伝導路を理解する。平衡覚の構造を理解する。					
6	解剖学 第9章 感覚器；平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器					平衡覚の構造、平衡覚の伝導路を理解する。味覚器と嗅覚器の伝導路を理解する。					
7	感覚器、確認テスト 解剖学 復習					感覚器の確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。期末テストに向けて復習を行い、解剖学の範囲を全て理解することができる。					
8	生理学 第11章 筋 A骨格筋の構造と働き～B筋の収縮の仕組み					骨格筋の微細構造と、興奮収縮連関を理解できる。					
9	生理学 第11章 筋 Cエネルギー供給の仕組み					筋収縮のエネルギー代謝と熱産生を理解できる。					
10	生理学 第11章 心筋と平滑筋					心筋と平滑筋の構造を理解できる。心筋、平滑筋、骨格筋の特徴と相違を理解できる。					
11	生理学 第12章 運動 A骨格筋の支配神経～e骨格筋の緊張					骨格筋の支配神経を理解できる。					
12	生理学 第12章 運動 B運動の調節					中枢神経の各レベルの運動調節機構を理解できる。					
13	生理学 第12章 C錐体路系と錐体外路系～D発生と言語					運動の伝導路を理解できる。					
14	生理学 復習 確認テスト					筋および運動の機能を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。					
15	期末テスト					テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価はFormsと筆記試験で行う。Formsは確認テスト（40点分）、筆記試験（60点分）の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								東野 友寛			
運動学				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
臨床現場で勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、臨床から得た経験を基に臨床に必要な運動学の知識、資格取得後に必要な視点や思考を伝えていく。											
〔到達目標〕 人体構造の特徴を座学・実技を通して学ぶことで運動への理解を深め、それを実践で活かしていけるようにすること。											
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション医学(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	運動学とは、脊柱					運動学がどのようなものかつかむ。脊柱の機能、特徴を理解する。					
2	上肢					肩甲帯の特徴を理解する。					
3	下肢					前腕部の特徴を理解する。					
4	確認試験・骨盤					現在の理解度を確認する。					
5	下肢					股関節、膝の特徴を理解する。					
6	下肢					膝、足関節の特徴を理解する。					
7	歩行					歩行についての特徴を理解する。					
8	確認試験					現在の理解度を確認する。					
9	実習①					運動を体感する。					
10	実習②					運動を体感する。					
11	実習③					呼吸と運動についてr体感する。					
12	実習④					身体の評価、変化を体感する。					
13	実習⑤					運動を体感する。					
14	実習⑥					運動を体感する。					
15	まとめ					履修内容のまとめを行う。					
〔評価について〕 確認テスト（20点）＋期末試験（50点）＋実習レポート（30点）の計１００点で評価する。						〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員				
授業科目名								櫻井 恵司				
				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）												
開業鍼灸師で鍼灸施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。												
〔到達目標〕												
病因、循環障害、退行性病変、進行性病変の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目的とする。												
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕							
病理学概論（医歯薬出版）												
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的					病理学とは何か、疾病に分類について理解できる。						
2	第3章 病因 内因 素因、遺伝					素因や染色体異常により罹患しやすい疾患を理解できる。						
3	第3章 病因 内因 内分泌、免疫					内分泌疾患や免疫反応について理解できる。						
4	第3章 病因 外因 供給障害					ビタミンや無機塩類の過不足により生じる疾患や症状を理解できる。						
5	第3章 病因 外因 物理的要因、化学的要因					放射性物質の感受性の高い器官や、化学物質によって生じる疾患を理解できる。						
6	第3章 病因 外因 医原病、環境汚染、生物的要因					医療行為によって発生する疾患や、病原微生物によって発症する感染症を理解できる。						
7	試験（病因）					試験により効果測定を行い、授業の習得度を理解する。						
8	第4章 循環障害 循環器復習					循環障害に関わる循環器系を復習し、理解できる。						
9	第4章 循環障害 うっ血、貧血、出血					うっ血の発生機序、貧血や出血の種類や疾患を理解できる。						
10	第4章 循環障害 血栓、塞栓、梗塞					血栓、塞栓、梗塞の種類と発生機序を理解できる。						
11	第4章 循環障害 水腫、浮腫、脱水症、ショック					浮腫、脱水症の種類、発生機序、症状を理解できる。 ショックの種類を理解できる。						
12	第5章 退行性病変 萎縮、変性					萎縮や変性の病態と種類を理解できる。						
13	第5章 退行性病変 加齢、生活習慣病、壊死と死					加齢によって発症する疾患や生活習慣病の病態について理解できる。壊死の種類、脳死の定義を理解できる。						
14	第6章 進行性病変 肥大と増殖、再生、化生					再生の分類、化生と腫瘍のの関係について理解できる。						
15	第6章 進行性病変 創傷治癒 試験（循環障害、退行性病変、進行性病変）					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕					〔特記事項〕							
評価は試験で行う。 試験は4回行い合計200点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引き、またメモをとること。主にPDFデータ（または配布プリント）による授業を行なう。							

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員				
授業科目名								櫻井 恵司				
				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）												
開業鍼灸師で鍼灸施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。												
〔到達目標〕												
炎症、腫瘍、免疫、アレルギー、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。												
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕							
病理学概論（医歯薬出版）												
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
16	第7章 炎症 炎症の一般					炎症の発生機序を理解できる。						
17	第7章 炎症 炎症の分類					炎症の分類と疾患を理解できる。						
18	第7章 炎症 炎症の分類					特異性炎の特徴を理解できる。						
19	第8章 腫瘍 腫瘍の一般					異型性や腫瘍組織について理解できる。						
20	第8章 腫瘍 良性腫瘍と悪性腫瘍					良性腫瘍と悪性腫瘍の相違、腫瘍の分類について理解できる。						
21	第8章 腫瘍 転移、要因					転移しやすい器官、転移方式、腫瘍の要因について理解できる。						
22	試験（炎症、腫瘍）					試験により効果測定を行い、授業の習得度を理解する。						
23	第9章 免疫異常・アレルギー 免疫の概要					免疫の概要について理解できる。						
24	第9章 免疫異常・アレルギー 主な免疫担当細胞、抗体の分種類					免疫担当細胞と抗体の種類を理解できる。						
25	第9章 免疫異常・アレルギー アレルギーの分類と疾患					アレルギーの分類、発生機序、疾患を理解できる。						
26	第9章 免疫異常とアレルギー 免疫不全、自己免疫異常					主な免疫不全、自己免疫疾患、膠原病について理解できる。						
27	第10章 先天性異常 先天性異常総論					先天性代謝異常について理解できる。						
28	第10章 先天性異常 遺伝性疾患、染色体異常					染色体異常や遺伝疾患について理解できる。						
29	試験					試験により効果測定を行い、授業の習得度を理解する。						
30	総復習					練習問題を用いながら、総復習を行い病理学について習熟度を高めることができる。						
〔評価について〕						〔特記事項〕						
評価は試験で行う。 試験は4回行い合計200点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引き、またメモをとること。主にPDFデータ（または配布プリント）による授業を行なう。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員				
授業科目名								山田 英史				
臨床医学総論								必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）												
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。												
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。												
〔到達目標〕												
医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。												
各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。												
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕						
臨床医学総論(医歯薬出版)☒						専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	・第1章；診察の概要 ・第2章；診察の方法 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法					医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。						
2	・第2章；診察の方法 視診、触診、打診					視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。						
3	・第2章；診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察					聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。						
4	・第3章；生命聴講（バイタルサイン）の診察 体温、脈拍					体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。						
5	・第3章；生命聴講（バイタルサイン）の診察 血圧、呼吸					血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。						
6	・第4章；全身の診察 顔貌、精神状態、言語					顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。						
7	・第4章；全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位					身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。						
8	中間テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	・第4章；全身の診察 歩行					歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。						
10	・第4章；全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態					皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。						
11	・第4章；全身の診察 リンパ節、その他の一般的状態					リンパ節、その他の一般的状態の診察の意義と診察方法について理解できる。						
12	・第5章；局所の診察 頭部・顔面					頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。						
13	・第5章；局所の診察 眼、鼻					眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。						
14	・第5章；局所の診察 耳、口腔					耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。						
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕						〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト（50点）と期末テスト（50点）の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								山田 英史			
臨床医学総論				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。											
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。											
〔到達目標〕											
医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。											
各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
臨床医学総論(医歯薬出版)☒					専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	・第5章；局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜					頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。					
17	・第5章；局所の診察 腹部・背部					腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。					
18	・第5章；局所の診察 四肢					四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。					
19	・第6章；神経系の診察 感覚検査法、反射検査					感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。					
20	・第6章；神経系の診察 脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査					脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の意義と診察方法について理解できる。					
21	・第6章；神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動					運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。					
22	中間テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
23	・第6章；神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法					協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。					
24	・第8章；その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察					救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。					
25	・第9章；臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概					血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。					
26	・第11章；治療学 ・第12章；臨床心理					治療学、臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。					
27	・第10章；おもな症状の診察①					各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。					
28	・第10章；おもな症状の診察②					各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。					
29	・第10章；おもな症状の診察③					各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。					
30	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト（50点）と期末テスト（50点）の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員					
授業科目名								酒井 大輝/進藤 千聖					
臨床医学各論Ⅰ		必修/ 選択		必修		授業 形態		講義		時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を 基に授業を展開する。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。													
〔到達目標〕 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。													
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論（医歯薬出版）					〔準備学習・時間外学習〕 授業後は復習をし各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙で きるようになることが望ましい。☑								
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
1	第1章；感染症 総論、細菌感染症					感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法 について、理解できる。							
2	第1章；感染症 細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症					細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病 態、診断、治療法について、理解できる。							
3	第1章；感染症 ウイルス感染症、性感染症					ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療 法について、理解できる。							
4	確認試験①、第8章；整形外科疾患 総論、関節疾患					第1章の小テストによる効果測定を行う。整形外科疾患の 総論、関節疾患の臨床症状、病態、診断、治療法につい							
5	第8章；骨代謝性疾患・骨腫瘍					骨代謝疾患・骨腫瘍の臨床症状、病態、診断、治療法につ いて、理解できる。							
6	第8章；筋・腱疾患					筋・腱疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理 解できる。							
7	第8章；形態異常、脊椎疾患					形態異常、脊椎疾患の臨床症状、病態、診断、治療法につ いて、理解できる。							
8	第8章；脊椎疾患、脊髄損傷					脊椎疾患、脊髄損傷の臨床症状、病態、診断、治療法につ いて、理解できる。							
9	第8章；外傷					外傷の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解でき る。							
10	第8章；外傷、その他整形外科疾患					外傷と、その他の整形外科疾患の臨床症状、病態、診断、 治療法について、理解できる。							
11	確認試験② 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを 把握し、理解度を深める。							
12	第2章；口腔疾患、食道疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。							
13	第2章；食道疾患、胃十二指腸疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。							
14	第2章；胃十二指腸疾患、腸疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。							
15	第2章；腸疾患、腹膜疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 確認試験と期末試験の合計100点で評価する。 評価基準は学則に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを とること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。							

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								酒井 大輝/進藤 千聖			
臨床医学各論Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。											
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕											
各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
臨床医学各論（医歯薬出版）					授業後は復習をし各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようにすることが望ましい。☑						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	第3章：肝臓疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
17	第3章：肝臓疾患、胆道疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
18	第3章：膵臓疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
19	確認試験③ 第4章：感染性呼吸器疾患					3章の習熟度を測り更に理解を深める。 疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
20	第4章：閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
21	第4章：その他呼吸器疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
22	確認試験④ 第5章：糸球体疾患、感染症、腎不全					4章の習熟度を測り更に理解を深める。 疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
23	第5章：結石症、腫瘍性疾患、前立腺疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
24	確認試験⑤ 第7章：糖代謝異常					5章の習熟度を測り更に理解を深める。 疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
25	第7章：糖代謝異常、脂質代謝異常					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
26	第7章：尿酸代謝異常、その他代謝異常					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
27	確認試験⑥ 第6章：下垂体疾患					7章の習熟度を測り更に理解を深める。 疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
28	第6章：甲状腺疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
29	第6章：甲状腺疾患、副腎疾患					疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
30	期末試験 解説					7章の習熟度を測り更に理解を深める。 疾患に関わる解剖生理学を理解し、病態を理解できる。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。					
確認試験と期末試験の合計100点で評価する。						必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					
評価基準は学則に準ずる。											

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								東野 友寛			
リハビリテーション医学Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員がリハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかについて授業を展開する。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕 リハビリテーションの理念やその対象の決め方、進め方などを理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	リハビリテーションと障害					基本理念を理解する。					
2	IHIDHとICF					ICFを理解する。					
3	リハビリテーションの対象					身体障害について理解する。					
4	リハビリテーションの進め方					チームアプローチの理解をする。					
5	高齢者と高齢社会/確認テスト①					高齢者の特性を理解する。					
6	MMTとROM					MMTとROMの違いを理解する。					
7	活動の評価					バーセルインデックス・FIMを理解する。					
8	廃用症候群					廃用症候群とは何かを知り、症状や原因などを理解し、どのようなリハビリを行なうかを理解する。					
9	ブルンストームのステージ/確認テスト②					痙性マヒと弛緩性マヒの違いを理解する。					
10	理学療法					理学療法を理解する。					
11	作業療法					作業療法を理解する。					
12	言語聴覚療法					言語聴覚療法を知り、理解する。					
13	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク					補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワークについて理解できる					
14	総復習					授業の振り返りを行い、習熟度を高めることができる。					
15	期末テスト 解答・解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト①確認テスト②期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名								東 路子			
				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、世界と我が国の社会保障制度、社会保障について授業を展開する。鍼灸臨床の保険適応の分野に必要な知識を習得することを目的とする。 医療人及びはり師きゅう師としての社会的役割を理解し、職業倫理を身に付けることを目的とする。											
〔到達目標〕											
我が国の社会保障制度について説明できる。社会保険について仕組みを理解し説明できる。職業倫理について学び医療人およびはり師きゅう師として自分の意見を述べることができる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
医療概論、関係法規、公衆衛生学、厚労省開示資料											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	社会保障制度について理解する				社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生について理解することができる。						
2	社会保険制度 (①医療保険)				医療保険の仕組みについて理解することができる。						
3	社会保険制度 (②介護保険)				介護保険の仕組みについて理解することができる。						
4	社会保険制度 (③年金保険)				年金保険の仕組みについて理解することができる。						
5	社会保険制度 (④雇用保険 ⑤労災保険)				雇用保険・労災保険について理解することができる。						
6	鍼灸師として役割				保険利用を見据えてシステムを理解することができる						
7	職業倫理について				職業倫理を理解し、自分の意見を述べることができる						
8	期末試験				確認テストを通じて社会保障について理解し意見を述べる ことができる						
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は期末テスト(100点) 評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において示す重要事項は下線を引いたり、メモをとったり各自工夫をすること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								藤掛 雅博			
経絡経穴概論Ⅱ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な反応点であり治療点となる経絡経穴について授業を展開する。 古くから鍼灸師が重視してきた病態鑑別に重要な知識であるため、初心者者の臨床応用を強化するために基礎から応用へ展開していく。											
〔到達目標〕 経穴を覚え、臨床応用できるよう考える力を養い基礎力を固める。											
〔使用教材、参考文献等〕 新板経絡経穴概論（医道の日本）					〔準備学習・時間外学習〕 常用漢字以外も経穴名に含まれるため予習をし、授業後は用語理解を深めるために復習を行うこと。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	流注・骨度法など					流注・骨度法などを理解できる。					
2	手の陰経：取穴部位・要穴					手の陰経：取穴部位・要穴を理解できる。					
3	手の陽経：取穴部位・要穴					手の陽経：取穴部位・要穴を理解できる。					
4	背部：取穴部位・要穴					背部：取穴部位・要穴を理解できる。					
5	確認テスト					1～4で習得した知識の再確認ができる。					
6	足の陽経：取穴部位・要穴1					足の陽経：取穴部位・要穴を理解できる。					
7	足の陽経：取穴部位・要穴2					足の陽経：取穴部位・要穴を理解できる。					
8	足の陰経：取穴部位・要穴					足の陰経：取穴部位・要穴を理解できる。					
9	胸部・腹部：取穴部位・要穴					胸部・腹部：取穴部位・要穴を理解できる。					
10	要穴まとめ・組合せ穴					要穴まとめ・組合せ穴を理解できる。					
11	奇経など					奇経を理解できる。					
12	頸部・顔面・頭部：取穴部位					頸部・顔面・頭部：取穴部位を理解できる。					
13	頸部・顔面・頭部：取穴部位					頸部・顔面・頭部：取穴部位を理解できる。					
14	定期試験					問題の解法が導きだせるようになる。					
15	解答・解説, 総復習					期末試験の解答解説を行う。					
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。暗唱課題(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 十四経については所属する経穴名が所定の時間内に暗唱できること。必ず復習を行うこと。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								高濱 晴美			
東洋医学概論Ⅱ		必修/ 選択		必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。主に鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や体・病の捉え方など基本から習得できる授業を行なう。初めて聞くような言葉や漢字がたくさん出てくるので、意味などを覚えながら受講できるよう、復習も欠かさず授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕											
鍼灸の基本となる東洋医学の知識を復習しながら、応用できるようになる。また、東洋医学的な人体の考え方や病気の考え方を修得し実技にも結びつけることが出来るようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
新板東洋医学概論（医道の日本）					毎回の小テストに備え、前回の授業の復習をすること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	四診について（望診）①					人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。					
2	四診について（望診）②					人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。					
3	四診について（聞診）①					声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。					
4	四診について（聞診）②					声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。					
5	確認テスト 解答・解説					中間テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
6	四診について（問診）①					患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうのかを理解し実践できるようになる。					
7	四診について（問診）②					患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうのかを理解し実践できるようになる。					
8	四診について（切診）①					直接触れて身体の悪いところなどが分かるようになる。					
9	振り返りと四診の続き					テストの振り返りを行い、習得できていないところを再確認する。四診の切診について理解を深める。					
10	四診合参について					四診を総合的に判断し、病状を明らかにすることで正確な弁証を行なって治療へと結びつけることが出来る。					
11	弁証について（八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証）					それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。					
12	弁証について（経絡弁証、六経弁証、衛気営血弁証など）					それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。					
13	論治について（治則、治法、治療法の概要）					具体的な治療方針について学び理解することが出来る。					
14	弁証論治の進め方と証の決定について					弁証の手順の確認をして、臨床に活かせるようになる。					
15	期末テスト 解答・解説					期末テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。											

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								酒井 大輝			
はりきゅう治効理論				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸治療における効果機序について授業を展開する。「鍼灸がなぜ効くのか」について学び、患者対し説明ができるようにならなければならない。東洋医学とともに発展してきた鍼灸治療は西洋医学的な医療従事者と相いれないと考えられてきたが、最近では西洋医学的なエビデンスの獲得が進んでいる。治療の幅を広げるために、進んで勉強してもらいたい。											
〔到達目標〕											
なぜ鍼灸治療が効果があるのかを体験し、言語化できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
はりきゅう理論（医道の日本）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 2.生体の調節 1) 運動の調節					運動調節の生理学が理解できる。					
2	第8章 2) 内臓の調節					鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる②					
3	第8章 2) 内臓の調節 3)感覚					神経線維と伝導路について理解できる。					
4	第8章 3)感覚					神経線維と伝導路について理解できる。					
5	第8章 4)熱傷					熱傷と炎症について理解できる。					
6	第8章 5)体表の反応 8章復習					トリガーポイントの特徴を理解できる。					
7	確認テスト 第9章 鍼灸治効機序 脊髄分節性鎮痛 末梢性鎮痛					8章の確認テストを行う。 脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛を理解できる。					
8	第9章 鍼灸治効機序 全身性鎮痛					全身性鎮痛、特に下行性痛覚抑制系を理解できる。					
9	第8章試験確認と復習 鍼鎮痛の復習					内因性痛覚抑制系を復習し、それぞれ理解することができる。					
10	第9章 鍼灸治効機序 循環系と鍼灸 運動系と鍼					軸索反射を理解することができる。					
11	第9章 鍼灸治効機序 消化器系と鍼・泌尿器系と鍼・リラクセーションと					消化管運動・下部尿路機能に鍼が及ぼす影響について理解できる。					
12	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点					これまで習ってきたことを臨床的に理解することができる。					
13	第9章 第10章 復習					第9章 第10章の復習を行い、特に重要な範囲を理解することができる。					
14	期末試験					鍼灸刺激の治効理論を理解できる 確認テストにより第8.9.10章の理解度を確認できる					
15	期末試験 解答・解説					期末試験の解答解説を行い、不明な点を理解し、復習することができる。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
確認テスト（30点分）、課題（10点分）、期末試験（60点分）の合計100点で評価を行う。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ることに。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名		東洋医学臨床論Ⅰ						東 路子/高濱 晴美			
		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。 症候に関して鍼灸の施術範囲か否かを鑑別する能力や東洋医学的な病態把握と施術方法について考える能力を養う。 臨床現場に直結する分野であるため様々な患者を想定し自身で考え主体的に授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕 症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論（医道の日本）					〔準備学習・時間外学習〕 基礎医学(解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴)の知識が必要になるため1年次の履修内容の復習する時間を設けること。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	第1章 総論、第2章 各論「眼精疲労」				東洋医学概論を学び終え、更なるステップアップのための東洋医学臨床論を学ぶための導入部分の理解ができる。						
2	各論「気分障害（うつ状態）」、「めまい」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
3	各論「めまい」、「動悸・息切れ」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
4	各論「動悸・息切れ」、「血圧異常」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
5	各論「血圧異常」、「睡眠障害」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
6	各論「睡眠障害」、「咳嗽と喀痰」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
7	各論「咳嗽と喀痰」、「呼吸困難」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
8	各論「鼻閉・鼻汁」、「脱毛症」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
9	確認テスト①				ここまでの復習を兼ねた確認テストの実施						
10	各論「脱毛症」、「耳鳴り・難聴」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
11	各論「耳鳴り・難聴」、「排尿障害」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
12	各論「排尿障害」、「ED」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
13	各論「ED」、「疲労と倦怠」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
14	確認テスト②				期末テストで実力確認						
15	確認テスト②返却と解説				返却されたテストの見直し、苦手な部分を理解しておこう！						
〔評価について〕 評価は2回の確認テスト合計100点満点で行う。					〔特記事項〕 それぞれの病気について毎回、授業後復習をしましょう。 学習量が多いため復習が必須です。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								東 路子/高濱 晴美			
東洋医学臨床論Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を 基に授業を展開する。											
症候に関して鍼灸の施術範囲か否かを鑑別する能力や東洋医学的な病態把握と施術方法について考える能力を養う。											
臨床現場に直結する分野であるため様々な患者を想定し自身で考え主体的に授業に臨んで欲しい。											
〔到達目標〕											
症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論（医道の日本） 解剖学（医歯薬出版）					〔準備学習・時間外学習〕 基礎医学(解剖学・生理学・東洋医学概論・経絡経穴)の知識が必要になる ため1年次の履修内容の復習する時間を設けること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	頭痛 顔面痛 歯痛 東洋医学的な痛みの考え方					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
17	関節痛 肩関節痛					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
18	頸肩腕痛 上肢痛					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
19	腰痛 腰下肢痛 下肢痛 膝痛					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
20	胸痛					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
21	腹痛					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
22	確認試験③					確認試験を通じて理解を深めることができる。					
23	脾の働きと病態について					東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
24	食欲不振					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
25	肥満とやせ					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
26	悪心嘔吐					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
27	便秘					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
28	下痢					西洋医学・東洋医学的視点で病態把握し、東洋医学的な治療方針を立てることができる。					
29	問題演習および解説					問題演習を通じて理解を深めることができる。					
30	期末試験					確認試験を通じて理解を深めることができる。					
〔評価について〕 評価は確認テスト(45点)と期末テスト(42点)および課題提出(13点)を含めた合計100点満点で行う。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	半期	担当教員			
授業科目名		病態生理学						深山 俊			
		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、現代西洋医学をベースに病態把握・鑑別をするために必要な知識を習得するための授業を行なう。グループワークにて各疾患のメカニズムを調べ、発表にてアウトプットを行う。1年次に習得した鍼施術の効果に関わる生理学のメカニズムについて復習し、グループごとに実験、検証を行う。											
〔到達目標〕											
臨床医学総論や臨床医学各論の知識に肉付けし、臨床科目の理解を促すことを目的として、病態把握、鑑別の必要性を理解し、重篤な疾患や緊急を要する病態を見落とさないための知識を習得することを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 臨床家のための基礎からわかる(医道の日本社) 臨床医学各論(医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書・参考書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。							
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	痛みのメカニズム①				痛みの分類と概要を理解する。						
2	痛みのメカニズム②				痛みの発生機序について理解できる。						
3	消化管疾患の病態生理				消化器系の解剖生理を復習し、各種疾患における病態を理解する。						
4	消化管疾患の病態生理				消化器系の解剖生理を復習し、各種疾患における病態を理解する。						
5	下痢・便秘の病態生理				下痢・便秘の病態生理、臨床症状について理解できる。						
6	確認テスト				痛み・腹痛・下痢についての理解度をチェックする。						
7	グループワーク				各グループで設定されたテーマ(疾患)の病態について調べ学習を行う。						
8	グループワーク				各グループで設定されたテーマ(疾患)の病態について調べ学習を行う。						
9	グループワーク				各グループで設定されたテーマ(疾患)の病態について調べ学習を行う。						
10	グループワーク				各グループで設定されたテーマ(疾患)の病態について調べ学習を行う。						
11	グループワーク				各グループで設定されたテーマ(疾患)の病態について調べ学習を行う。						
12	グループワーク（発表準備）				発表に向けたプレゼンリハや質疑応答に備えて準備を行う。						
13	グループワーク（発表準備）				発表に向けたプレゼンリハや質疑応答に備えて準備を行う。						
14	期末テスト（発表）				各グループごとに調べた疾患について発表を行い理解度を深める機会にする。						
15	期末テスト（発表）				各グループごとに調べた疾患について発表を行い理解度を深める機会にする。						
〔評価について〕 確認試験(30点)、期末試験(60点)の合計100点で評価する。評価基準は学則に準ずる。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								専任教員			
触擦解剖Ⅱ		必修/ 選択		必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。临床上必要な関節可動域測定や徒手筋力検査を実技形式で行う。卒業に関わる実技試験で問われる内容(ROM・反射検査・徒手検査法)なので主体的に取り組んで欲しい。より臨床的な内容になるため、治療のイメージが持てるようになって欲しい。											
〔到達目標〕 主要な関節の可動域(ROM)・徒手筋力検査(MMT)、腱反射・病的反射による神経の診察法、徒手検査法ができるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 ずっと使える！鍼灸臨床BOOK					〔準備学習・時間外学習〕 技術を習得する授業であるため、反復練習をし習得に努める。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	血圧測定					血圧計の取り扱いと正しい計測方法が実践できる。					
2	現代医学的診察 腱反射、病的反射					腱反射、病的反射の方法を実践できる。					
3	現代医学的診察 徒手検査法 頸肩部					頸肩部の徒手検査法を実践できる。					
4	現代医学的診察 徒手検査法 腰下肢					腰部下肢の徒手検査法を実践できる。					
5	現代医学的診察 徒手検査法 その他、徒手検査の総復習					その他の徒手検査を実践できる。患者役に徒手検査法の意義を説明し、測定できる。					
6	ROM概要・頸部ROM測定					ROMの概要(計測方法・器具の使い方)を理解し模倣できる。頸部の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。					
7	上肢ROM測定					上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる					
8	下肢ROM測定					下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。					
9	MMT概要・頸部MMT測定					MMTの概要(6段階評価・測定方法)を理解し模倣できる。頸部の運動方向を理解し、測定ができる。					
10	上肢MMT測定					上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向を理解し、測定できる。					
11	下肢MMT測定					下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向を理解し、測定できる。					
12	MMT総復習(患者対応含めた対応)					患者役にMMT測定の意義を説明し、測定できる。					
13	徒手検査法、ROM測定の総復習(患者対応含めた対応)					患者役に徒手検査、ROM測定の意義を説明し、測定できる。					
14	確認テスト 徒手検査法					徒手検査法のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
15	期末テスト ROM測定					ROM測定のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
〔評価について〕 確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価基準は学則に準ずる。						〔特記事項〕					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	半期	担当教員			
授業科目名								酒井 大輝			
社会あはき学Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、多様な臨床現場でのあはき師の業務・役割について授業を展開する。 また、鍼灸師の新たな働き方や分野の創造、はりきゅう経営に関わる経営学を講義・ワーク形式で行う。											
〔到達目標〕											
1年次に学んだ社会あはき学の内容を踏まえ、様々な現場で活動する鍼灸師の仕事・役割を知ること、自身の将来像をより明確に出来る。独立開業権を有する鍼灸師として、治療院経営をイメージできる。											
〔使用教材、参考文献等〕 社会あはき学（医道の日本）					〔準備学習・時間外学習〕 講義内容を復習し、自分自身の将来像を明確にする。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	鍼灸師としての活躍の場①				あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。						
2	鍼灸師としての活躍の場②				あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。						
3	鍼灸師としての活躍の場③				あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。						
4	鍼灸師としての活躍の場④				あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。						
5	はりきゅう経営論 オリエンテーション 業界理解				健康産業について理解できる						
6	SDGSと鍼灸				SDG s について理解し、鍼灸業界との関連を考える						
7	鍼灸の働き方				鍼灸師の働き方について考えることが出来る。						
8	ESGについて				日本のESGと業界のESGについて考えること出来る。						
9	個人ワーク				鍼灸の働き方について考えることが出来る。						
10	CSRとCSV				コンプライアンスと共有価値の創造を理解できる。						
11	市場調査				競合する業界の調査ができる。						
12	グループワーク①				グループで成果物を作成する。						
13	グループワーク②				グループで成果物を作成する。						
14	期末試験（発表）				グループで作成した成果物の発表を行う。						
15	期末試験（発表）				グループで作成した成果物の発表を行う。						
〔評価について〕 評価は授業内で行うワークでの成果物(課題評価)と発表(演習)にて行う。					〔特記事項〕						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								酒井 大輝			
応用はり実技				必修/ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。大関節を中心に構造機能を理解した上で主要筋肉、靱帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、獲得するという能動的学びを求める。											
〔到達目標〕											
鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
練習用動画・配布資料											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	ガイダンス・基本的な刺鍼方法の復習					この科目の履修ポイントと心構えを理解する。 頭頸部への直刺ができる。					
2	通電療法の基本と体験					通電療法で使用する機材の基本操作を身に付けて、どのようなものなのかを理解できる。					
3	下腿の刺鍼①					下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。					
4	下腿の刺鍼②					下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。					
5	頭頸部の刺鍼①					頭頸部の構造および機能の復習 頭部への横刺					
6	頭頸部の刺鍼②					頭頸部の構造および機能の復習 つまみ押手の習得					
7	肘部～前腕部の刺鍼					肘関節・手関節の構造および機能の復習 前腕屈筋群および伸筋群への刺鍼と通電					
8	肩部の触察と刺鍼					肩関節の構造および機能の復習 主要筋の触察を行い、的確な刺鍼と通電ができる。					
9	肩甲間部の刺鍼					肩背部の筋肉層を理解し、安全な刺鍼操作を行う。					
10	腰部の刺鍼					腰部の筋とその作用を理解し、可動域検査により施術の目標部位を鑑別し適切に刺鍼操作を行う。					
11	腰部～殿部の刺鍼					骨盤部の構造と機能について理解する。 股関節周囲の触察と刺鍼を適切に行う。					
12	股関節部の刺鍼					可動域改善を目標に施術部位の選定を触察を中心に行う。 患部への刺鍼および通電を適切に行う。					
13	膝部の刺鍼					膝関節の構造と機能を理解する。 膠原組織への通電を学ぶ。					
14	確認試験（実技）					1～13回の内容の確認を実技にて行う。					
15	通電療法の総復習					中間試験の総括を行い、修正が必要な技術の復習を行う。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
実技試験および筆記試験にて確認試験行う。 実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準ずる。						与えられた課題に対して取り組み、その結果を自分なりに分析を行うよう努めること。鍼を人の身体に刺すことに対して責任感をもって授業に臨むこと。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名								酒井 大輝			
				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。大関節を中心に構造機能を理解した上で主要筋肉、靱帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、獲得するという能動的学びを求める。											
〔到達目標〕											
鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。											
〔使用教材、参考文献等〕 練習用動画・配布資料					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法					胸郭出口症候群の鑑別					
17	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法					肩関節周囲炎の鑑別					
18	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法					頸椎症の鑑別（神経根症の障害高位）					
19	整形外科領域の鍼通電療法					頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
20	整形外科領域の鍼通電療法					頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
21	整形外科領域の鍼通電療法					頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
22	整形外科領域の鍼通電療法					肩関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
23	整形外科領域の鍼通電療法					肩関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
24	整形外科領域の鍼通電療法					腰部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
25	整形外科領域の鍼通電療法					腰部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
26	整形外科領域の鍼通電療法					膝部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
27	整形外科領域の鍼通電療法					下腿後面の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
28	整形外科領域の鍼通電療法					股関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる					
29	まとめ					今まで扱った範囲の技術復習を行う。					
30	期末試験					授業で扱った範囲における技術試験を行い、習熟度を測る					
〔評価について〕 実技試験および筆記試験にて確認試験行う。 実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 与えられた課題に対して取り組み、その結果を自分なりに分析を行うよう努めること。鍼を人の身体に刺すことに対して責任感をもって授業に臨むこと。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名								東 路子			
応用はりきゅう実技				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。実技授業を通じて基礎的な鍼灸の技術習得を中心とする。病態に対して理解を深め鍼灸技術を通じ、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を実践を交えながら習得する。授業以外の時間も通じて技術・知識の習得に励むこと。											
〔到達目標〕											
①透熱灸の大きさ・形・温度をコントロールすることが出来る。②人体表面において部位の特徴を捉え安全に施灸することが出来る。③腰部～膝にかけての病態を学び、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を習得し実践することができる。④無痕灸を理解し、安全に施灸できる方法を学び実践することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論（医道の日本）					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 紙施灸のやり方					施灸後の紙上で穴なし・ズレなしを10壮連続できる					
2	透熱灸/頭部施灸					頭部の取穴と毛の処理ができる					
3	透熱灸/頭部施灸 ②取穴小テスト					頭部の神経の走行について理解し取穴できる。					
4	透熱灸/井穴・榮穴の活用 ②取穴小テスト					井穴・榮穴に活用について理解し施術できる。					
5	糸状灸 ②取穴小テスト					糸状大の施灸方法を安全に実施できる					
6	透熱灸/奇穴 ②取穴小テスト					背部への透熱灸を実践できる。					
7	透熱灸/奇穴 ②取穴小テスト					腹部への透熱灸を実践できる。					
8	疼痛へのアプローチ					痛みの種類について理解し補瀉法を実践できる。					
9	運動器へのアプローチ/腰痛①					西洋医学的に疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
10	運動器へのアプローチ/腰痛②					東洋医学的に疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
11	運動器へのアプローチ/腰痛③					疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
12	運動器へのアプローチ/腰下肢痛①					西洋医学的に疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
13	運動器へのアプローチ/腰下肢痛②					東洋医学的に疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
14	運動器へのアプローチ/腰下肢痛③					疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
15	運動器へのアプローチ/下肢痛①					疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
〔評価について〕 評価は①透熱灸(穴なし1000壮)35点、②取穴確認テスト15点、③運動器を中心とした刺鍼・施灸試験25点、④無痕灸実技25点の100点で評価する。						〔特記事項〕 運動器に関しては解剖学の復習を中心に各自行うこと					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名								東 路子			
応用はりきゅう実技				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	60(2)	授業回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。実技授業を通じて基礎的な鍼灸の技術習得を中心とする。病態に対して理解を深め鍼灸技術を通じ、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を実践を交えながら習得する。授業以外の時間も通じて技術・知識の習得に励むこと。											
〔到達目標〕											
①透熱灸の大きさ・形・温度をコントロールすることが出来る。②人体表面において部位の特徴を捉え安全に施灸することが出来る。③腰部～膝にかけての病態を学び、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を習得し実践することができる。④無痕灸を理解し、安全に施灸できる方法を学び実践することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論（医道の日本）					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	運動器へのアプローチ/膝痛①					西洋医学的に疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
17	運動器へのアプローチ/膝痛②					東洋医学的に疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
18	運動器 確認試験 ③刺鍼・施灸25点					確認試験を通じて 運動器へのアプローチを行うことができる。					
19	運動器 確認試験					確認試験を通じて 運動器へのアプローチを行うことができる。					
20	知熱灸/①					散り艾を丸形にすることができる。					
21	知熱灸/②					散り艾を円錐形にすることができる。					
22	知熱灸/③					大きさ・形・硬さをコントロールし安全に施灸できる。					
23	隔物灸/①					ショウガ灸・ニンニク灸を安全に行うことができる。					
24	隔物灸/②					様々な灸法を行うことができる。					
25	灸頭鍼/①					鍼枕の上で灸頭鍼を設置することができる。					
26	灸頭鍼/②					鍼枕の上で灸頭鍼を設置し安全を確かめたら、自身の下腿に灸頭鍼を実施することができる。					
27	灸頭鍼/③					ペアの腰部に灸頭鍼を安全に実施することができる。					
28	無痕灸 総復習					無痕灸について確認試験前に技術確認を行う。					
29	確認試験 ④無痕灸 25点分					確認試験を通じて無根灸の技術確認を行う。					
30	確認試験 ①透熱灸 穴無し1000壮締切					確認試験を通じて無根灸の技術確認を行う。					
〔評価について〕 評価は①透熱灸(穴なし1000壮)35点、②取穴確認テスト15点、③運動器を中心とした刺鍼・施灸試験25点、④無痕灸実技25点の100点で評価する。						〔特記事項〕 運動器に関しては解剖学の復習を中心に各自行うこと					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								専任教員			
認定実技（OSCE）Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 （単位）	30 （1）	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
医療現場（鍼灸臨床現場）において各疾患の施術経験を有した教員が、患者の病態分析・観察に必要な知識・知見を基に授業を展開する。臨床実習に臨むために医療人としてふさわしい技術・知識を身につけるための講義および実技を行う。											
〔到達目標〕											
客観的臨床能力試験に向けたコミュニケーション技法を把握できる。 医療人として必要とされる技術・知識を理解できる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
ずっと使える!鍼灸臨床BOOK(滋慶教育科学研究所)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	実習前教育（1） 実習概要説明					実習生として必要なマナーを知り、身だしなみや態度に留意できる。					
2	個人情報の取り扱い					個人情報取り扱いの注意点を正しく理解できる。					
3	医療面接の概要 冊子を見てプレイ					医療面接における聴取事項と面接者としての配慮を理解できる。SOAP形式による記載事項を理解できる。					
4	医療面接ロールプレイ（3人1組 時間10分）冊子を見ないでプレイ					医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。					
5	医療面接ロールプレイ（3人1組 時間8分）冊子を見ないでプレイ					医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。					
6	確認テスト（医療面接）					医療面接のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。					
7	リスク管理					医療現場におけるリスクファクターと対策を知ることができる。					
8	実習前教育（2） 治療院実習の注意点					実習生として相応しい身だしなみや態度、マナー等を体現し、実習教育に臨む準備ができる。					
9	実習前教育（3） 実習管理と実習マナー教育					実習概要を再確認し、出欠表やデリノートなど実習の管理方法を理解できる。					
10	実習前教育（4） 実習管理と実習マナー教育					お礼状、実習生紹介書の書き方について理解し、作成できる。					
11	臨床教育(1) 疾患別モデル作成					症例について学び、患者モデル作成の準備ができる。					
12	臨床教育(2)					一般臨床で行われる治療法を学習できる。					
13	臨床教育(3) 症例報告					作成した患者モデルを発表できる。					
14	臨床実習総括(1)					実習報告を通して内省し、今後さらに学んで行くべき事柄を自ら見出し、自身の課題発見ができる。					
15	臨床実習総括(2) 期末評価					実習報告を通して内省し、今後さらに学んで行くべき事柄を自ら見出し、自身の課題発見ができる。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は医療面接による確認テストとレポートの合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。						学生は実習を受けさせていただくにあたり対人におけるマナー、礼節、リスク管理、時間管理を疎かにしてはならない。効果的な実習体験ができるよう、どのような行動を取るべきかを常に考え、分からない事や知りたい事は自らアドバイスを求めること。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								各実習地指導者又は専任教員			
臨床実習Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	実習	時間数 (単位)	90 (2)	授業 回数	—
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が鍼灸師のスペシャリストを目指すために患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。											
〔到達目標〕 挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。											
〔使用教材、参考文献等〕 デイリーノート					〔準備学習・時間外学習〕 コミュニケーションの基礎や実習前教育で学んだ内容を復習し実習に臨むこと。またその日のうちにその日の振り返りをし、次の実習に備えること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
2	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
3	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
4	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
5	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
6	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
7	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
8	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
9	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
10	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
11	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
12	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
13	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
14	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
15	鍼灸施術所による臨床実習					実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
〔評価について〕 評価は別途評価表で行なう。 評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								専任教員			
総合学習				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
鍼灸師として臨床現場で活躍してきた教員が、医療人を目指す上で必要な能力を、能動的に学習できるよう学習技法を習得する授業を行う。											
コミュニケーションスキルが医療を学ぶ上で必須の能力であることを意識して臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
集団行動を通してチーム医療に必要とされる基礎的なコミュニケーション能力と能動的学習法を習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
					講義内容を復習すること。各々が一社会人となる意識を持ち、人格形成に努めること。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術①					医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる					
2	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術②					医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる					
3	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術③					医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる					
4	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術④					医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる					
5	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術⑤					医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる					
6	職業倫理と系統解剖①					解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちが持てる。					
7	職業倫理と系統解剖②					解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちが持てる。					
8	職業倫理と系統解剖③					解剖見学をとおして知識の再習得が出来る					
9	職業倫理と系統解剖④					解剖見学をとおして知識の再習得が出来る					
10	職業倫理と系統解剖⑤					解剖見学をとおして知識の再習得が出来る					
11	業界への理解と自身の未来①					これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。					
12	業界への理解と自身の未来②					これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。					
13	業界への理解と自身の未来③					これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。					
14	業界への理解と自身の未来④					これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。					
15	業界への理解と自身の未来⑤					これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価はレポート提出による。評価は学則規定に準ずる。											

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								日本ライフセービング協会／専任教員			
総合学習				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
BLSについて知見のある教員が、BLSの基本的な知識と技術に関わる講義と実技を行なう。鍼灸師として心身の健康を支えるために必要なBLSの資格講習となるため、積極的に授業に臨んで欲しい。 現代医学的診察法においては臨床現場で必要な診察の基礎、血圧測定法やその意義を理解するための授業を行う。また座学科目の総合的知識確認の為に効果測定を行う。											
〔到達目標〕											
BLSの資格を取得を目標とする。臨床現場や日常生活で救命措置が必要な場面に遭遇した際、適確な判断のもと、対処できる知識と技術を習得する。現代医学的診察法では、臨床現場で必要となる血圧測定法・意義を理解し、適確に行える技術を習得する事を目的とする。また座学科目の総合的知識を確認し、知識の定着を目的とする。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
BLS;心肺蘇生教本（ライフセービング協会） ずっと使える!鍼灸臨床BOOK(滋慶教育科学研究所)					BLS：資格講習となるため繰り返し復習することが望ましい。検査法の意義、方法を理解するため解剖学や生理学を復習して授業に臨んで欲しい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	心肺蘇生法とAEDの使用について（1）					B L S の概要を理解できる。					
17	心肺蘇生法とAEDの使用について（2）					B L S の基礎知識を理解できる。					
18	心肺蘇生法とAEDの使用について（3）					心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。					
19	心肺蘇生法とAEDの使用について（4）					心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。					
20	心肺蘇生法とAEDの使用について（5）					心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。					
21	心肺蘇生法とAEDの使用について（6）					心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。					
22	心肺蘇生法とAEDの使用について（7）					心肺蘇生法、AEDの使用法を身につけることができる。					
23	心肺蘇生法とAEDの使用について（8）					資格認定試験を行なう。					
24	多様化する業界①					卒業生話を聞き、学校生活のイメージができる。					
25	多様化する業界②					卒業生話を聞き、学校生活のイメージができる。					
26	多様化する業界③					様々な分野で活躍するセラピスト話を聞き、将来像を明確にできる。					
27	確認テスト（1）					四肢択一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。					
28	確認テスト（1） レポート					テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
29	確認テスト（2）					四肢択一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。					
30	確認テスト（2） レポート					テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は確認テスト・レポート評価を2回実施し、合計100点で評価する。評価は学則規定に順ずる。					救命救急技術の演習を行なうため、動きやすい服装(スカート不可)で参加すること。						

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								鈴木 勇気			
総合スポーツ演習Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義/演習	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） スポーツ現場でトレーナー業を経験し体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場としてトレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいき知識・技術・経験を含め授業を展開する。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。											
〔到達目標〕 中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること											
〔使用教材、参考文献等〕 テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）					〔準備学習・時間外学習〕 授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	講義の概要とスポーツ外傷について					スポーツ外傷の基礎的な内容が理解できる。					
2	足関節・足部の外傷と評価					足関節・足部の外傷と評価方法が理解できる。					
3	足関節・足部の外傷における治療と運動療法					足関節・足部における治療と運動療法が理解できる。					
4	部位別ケーススタディ(足関節捻挫)					足関節捻挫におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。					
5	膝関節の外傷と評価					膝関節の外傷と評価方法が理解できる。					
6	膝関節の外傷における治療と運動療法					膝関節外傷における治療と運動療法が理解できる。					
7	膝の構造と内側側副靱帯に対するテーピング①					膝の構造を理解し、必要なテーピングができる					
8	膝の構造と前十字靱帯に対するテーピング②					膝の構造を理解し、必要なテーピングができる					
9	膝の構造と各靱帯に対するテーピング,確認テスト(実技)					膝関節テーピングテスト					
10	部位別ケーススタディ(前十字靱帯損傷)					膝前十字靱帯損傷におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。					
11	肉離れの概要と評価					肉離れの概要と評価方法が理解できる。					
12	肉離れにおける治療と運動療法					肉離れにおける治療と運動療法が理解できる。					
13	肉離れとテーピング					肉離れの概要を理解し、必要なテーピングができる。					
14	部位別ケーススタディ(ハムストリング肉離れ)					肉離れにおけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。					
15	確認テスト					筆記テストにより知識のアウトプットをする。					
〔評価について〕 評価は確認テストと期末試験を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					

2024年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		鍼灸師科 午前・午後コース		学年	2	開講 区分	通年	担当教員			
授業科目名								鈴木 勇気			
総合スポーツ演習Ⅰ				必修/ 選択	必修	授業 形態	講義/演習	時間数 (単位)	60 (2)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） スポーツ現場でトレーナー業を経験し体育学修士と医療資格を持った教員が、医療従事者の立場としてトレーナー現場の話を交えながら科学的根拠に基づいき知識・技術・経験を含め授業を展開する。トレーナー現場での中高校生など育成年代のスポーツ選手や鍼灸院や整骨院などでのスポーツ疾患を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。											
〔到達目標〕 中高校生など育成年代の部活動やスポーツチームで現場の高いニーズに応じてフルタイムでトレーナー活動が出来るようになること											
〔使用教材、参考文献等〕 テーピングのポイントはこれだ！（滋慶出版）					〔準備学習・時間外学習〕 授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
16	肩関節の外傷と評価					肩関節の外傷と評価方法が理解できる。					
17	肩関節の外傷における治療と運動療法					肩関節外傷における治療と運動療法が理解できる。					
18	肩関節前方脱臼及び肩鎖関節脱臼に対するテーピング					肩関節の機能を理解し肩関節のテーピングができる。					
19	肩の構造と各靱帯に対するテーピング,確認テスト(実技)					肩関節テーピングテスト					
20	部位別ケーススタディ(肩関節前方脱臼)					肩関節前方脱臼におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。					
21	肘関節の外傷と評価及び治療法					肘関節の外傷と評価や治療法が理解できる。					
22	肘関節テーピング 注意事項の講義と実技					肘関節の機能を理解しテーピングができる。					
23	アキレス腱炎やアキレス腱断裂の評価及び治療法					アキレス腱断裂の評価や治療法が理解できる。					
24	アキレス腱に対するテーピング					アキレス腱の機能を理解しアキレス腱のテーピングができる。					
25	突き指の評価及び治療法					突き指の評価や治療法が理解できる。					
26	頭・頸部外傷と評価					頭・頸部外傷と評価方法が理解できる。					
27	部位別ケーススタディ(脳震盪)					脳震盪におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。					
28	内科疾患と感染症の基礎知識					内科疾患や感染症などの最低限の基礎知識を理解するとともに指導者や保護者に伝達できる。					
29	成長期特有のケガの把握(オスグット、腰椎分離症、シーバー病など)					成長期特有のケガについて理解できる。					
30	期末テスト					筆記テストで知識のアウトプットを行う。					
〔評価について〕 評価は確認テストと期末試験を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 わからないことがあれば授業内で担当教員にアドバイスをもらうこと。					